

祝！シーボルト来日200周年



川原慶賀筆「シーボルト肖像」長崎歴史文化博物館蔵

来日
1823年8月長崎にDrie Gezusters(三人姉妹号)が入港。シーボルトが出島に上陸しました。2023年はシーボルトが来日して200年の節目の年に当たります。

プロフィール シーボルトってどんな人？

フィリップ・フランツ・フォン・シーボルトは、1796年に南ドイツのヴュルツブルグという町で、医学者の家に生まれました。ヴュルツブルグ大学に入学し、医学を修学するかわらわら植物学・動物学・地理学・民族学等を学びます。大学卒業後は、海外の自然について勉強すべく、オランダの陸軍軍医になりました。

出島かわら版

長崎市文化観光部
出島復元整備室
令和5年発行

かわら版...
江戸時代、時事に関する速報の印刷物のこと。
出島から最新情報をお届けします。

一大プロジェクト
当時の東インド総督ファン・デア・カペレン総督は、自然科学調査の振興に理解があり、シーボルトの調査にあたっては、多額の必要経費が支給され、彼の調査を手助けするため、画家や薬剤師が派遣されました。

彼の仕事のために多額のお金が動いたよ！

時代背景
シーボルトがオランダの陸軍軍医に赴任する以前、フランス勢力下にあったオランダは、イギリスと対立。その際、オランダの植民地であったバタビアがイギリスに占領されたため、日蘭貿易が混乱し業績が大きく落ち込んでいました。そこで、貿易の再興を図り新たな貿易品を見出す調査を行う目的で、シーボルトが出島へ派遣されたこととなったのです。

シーボルトと出島
シーボルトは1822年にオランダの陸軍軍医になった後、東インド自然科学調査官に就任し、1823年には、オランダ商館医として出島に派遣されました。

シーボルト記念館 もっと知りたい方はこちらへ！



シーボルトの偉業を今に伝えるために、国指定史跡シーボルト宅跡に隣接して建てられた資料館。ここでは、シーボルトの生涯と功績が紹介されており、全国から収集した貴重な資料が展示されています。

【所在地】
長崎市鳴滝2丁目

【アクセス】
路面電車「新中川町」下車徒歩10分
バス「中川町」下車徒歩9分



国外追放になった大事件！ シーボルト事件

1828年、シーボルトが5年の任期を終え、帰国する際、シーボルトが日本調査のため集めた品物の中に、国外への持ち出しが禁じられていた地図や将軍家の家紋付きの着物などが発見され大事件になります。長い取り調べのあと、関係があった人びとは処罰され、シーボルトは国外追放と再入国禁止を申し渡されました。



キヨソネ筆「シーボルト肖像」シーボルト記念館蔵

彼は「彼はオランダ人ではないのでは？」と疑いました。その場にいた館長スチュレルが「彼は山地のオランダ人だから」と機転をきかせ、無事上陸しました。

ルは国外追放と再入国禁止を申し渡されました。彼が再入国を許された日本に渡ってきたのは約30年後の1859年。和蘭貿易会社の顧問として、息子のアレクサンダーとともに来日した彼は、かつての友や門人、妻子である其扇とおいねに再会しました。



1 水門

上陸前の検査の際、シーボルトの話し方を聞いた日本人通詞は「彼はオランダ人ではないのでは？」と疑いました。その場にいた館長スチュレルが「彼は山地のオランダ人だから」と機転をきかせ、無事上陸しました。

2 旗竿跡

シーボルトが活躍した当時、出島北西には高さ約30メートルの大きな旗竿があり、オランダ国旗が翻っていました。

3 外科部屋

出島内でのシーボルトの居室です。現在の「新石倉(シアター)」の位置に建っていました。

4 ケンペル・ツェンペリー記念碑

シーボルトがケンペル、ツェンペリーを称えて建立した記念碑。シーボルト事件後に埋められましたが、掘り起こされ、現在は県の史跡に指定されています。

5 植物園

シーボルトや門人が採集した植物を植えた植物園。研究だけでなく、オランダへの船を待つ間の植物の育成と、移植のために順化させたため、シーボルトノキと各付けられました。

来日 200周年記念 令和5年、旗竿跡に再び オランダ国旗が翻ります！

2 旗竿

シーボルトが活躍した当時、出島北西には高さ約30メートルの大きな旗竿があり、オランダ国旗が翻っていました。

4 ケンペル・ツェンペリー記念碑

シーボルトがケンペル、ツェンペリーを称えて建立した記念碑。シーボルト事件後に埋められましたが、掘り起こされ、現在は県の史跡に指定されています。

5 植物園

シーボルトや門人が採集した植物を植えた植物園。研究だけでなく、オランダへの船を待つ間の植物の育成と、移植のために順化させたため、シーボルトノキと各付けられました。現在はオランダに残る植物の中からフジ、アケビ、ナツツタ、ケヤキ、イロハモミジの5種の子孫を譲り受け、育成しています。

1000種以上の植物を生育！

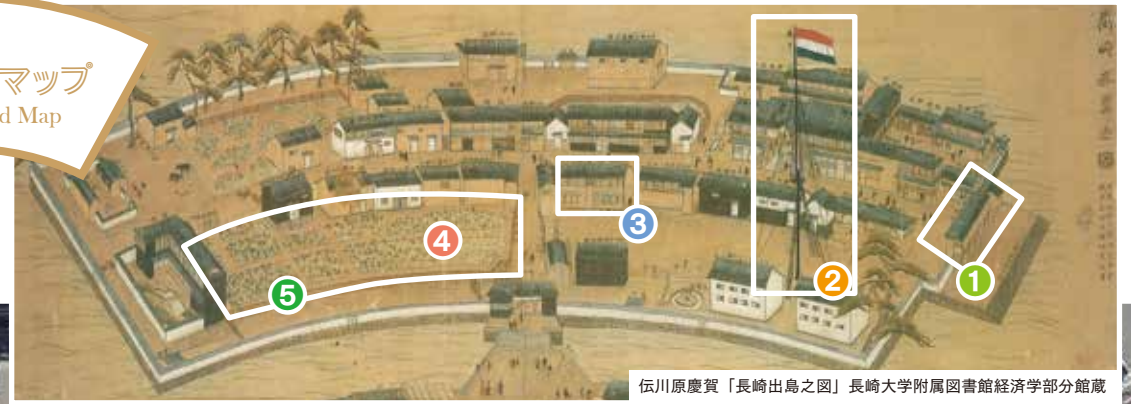
出合も別れも水門から!

1 水門

上陸前の検査の際、シーボルトの話し方を聞いた日本人通詞は「彼はオランダ人ではないのでは?」と疑いました。その場にいた商館長ステュルレルが「彼は山地のオランダ人だから訛っている」と機転をきかせ、無事上陸しました。



出島
シーボルトマップ
Dejima Siebold Map



伝川原慶賀「長崎出島之図」長崎大学附属図書館経済学部分館蔵



1 水門

拝礼筆者蘭人部屋
シーボルトや蘭学について
展示しています。

2 旗竿跡

来日
200周年記念
令和5年、旗竿跡に再び
オランダ国旗が翻ります!

3 外科部屋

出島内でのシーボルトの居宅です。
現在の「新石倉(シアター)」の位置
に建っていました。



4 新石倉

5 シーボルトノキ シーボルト来日150周年記念碑

クロウメモドキ科の植物。
鳴滝塾で発見されたため、
シーボルトノキと名付けられました。



シーボルト里帰り植物

シーボルト里帰り植物

1000種以上の植物を生育!

5 植物園

シーボルトや門人が採集した植物を植えた植物園。研究だけでなく、オランダへの船を待つ間の植物の育成と、移植のために順化させる役割がありました。現在はオランダに残る植物の中からフジ、アケビ、ナツツタ、ケヤキ、イロハモミジの5種の子孫を譲り受け、育成しています。



4 ケンペル・ツェンベリー記念碑

シーボルトがケンペル、ツェンベリーを称えて建立した記念碑。シーボルト事件後に埋められましたが、掘り起こされ、現在は県の史跡に指定されています。



2 旗竿

シーボルトが活躍した当時、出島北西には高さ約30メートルの大きな旗竿があり、オランダ国旗が翻っていました。

日本研究の大チャンス

最も科学的に日本を研究するためには、正確な資料を、極力広い地域・分野に渡って収集する必要があります。江戸参府はシーボルトにとって絶好の機会でした。



▲シーボルト『日本』所収「江戸参府のオランダ使節」(部分)シーボルト記念館蔵

駕籠はうごく研究室

三大著書

江戸参府での収集品や資料がシーボルトの著書の素材となり、西洋に日本を伝えることになりました。日本を離れたシーボルトは帰国後すぐに資料整理に着手し、日本で集めた資料や知識をまとめる準備にとりかかりました。

日本についての本格的な研究書である『日本』(1832年)、日本の動植物を紹介した『日本動物誌』(1833年)、『日本植物誌』(1835年)は彼の三大著書として知られています。



シーボルト『日本』所収「長崎港と湾の眺望」シーボルト記念館蔵

著書『日本』で紹介された長崎港の様子

いよいよ公開！ 慶賀屏風の複製

2017年オランダのとある民家から川原慶賀が描いた屏風「長崎湾の出島の風景」が発見されました。修復を終えライデン国立民族学博物館に展示中の屏風の複製が令和5年に完成します。



ライデンで修復された屏風▶

トピックス

日本に滞在した5年間
シーボルトの足跡をたどります

TOPICS

鳴滝塾

NARUTAKI JUKU

1824年長崎奉行高橋越前守重賢の許可を得て、長崎市鳴滝に診療所兼私塾を開きました。患者を収容するための病室の他、講義が行われる教室、図書室などがあり、建物の周りには植物園が作られました。

基本的に週一回、この場所にシーボルトが赴き、診療や講義をすることが、特例的に許されたと伝えられています。



「シーボルト宅跡写真」長崎歴史文化博物館蔵

植物園には門人たちが全国から採集した植物がたくさん！ここで栽培された植物でシーボルトが製薬することも...

川原慶賀

KAWAHARA KEIGA

江戸時代末の長崎の画家で、シーボルトのカメラとなり、当時の文化、風俗、習慣、自然等を克明に描き残しました。写実的な植物画は彩色も巧妙で素晴らしいシーボルトを満足させる力量があり、1826年の江戸参府に、慶賀は従者の一人として参加しました。残した作品が多く、大部分は国外に保存されています。



シーボルト著『日本植物誌』所収「アジサイ」長崎歴史文化博物館蔵

江戸参府

EDO SANPU

江戸参府は年に1回オランダ商館長が江戸に参府し將軍に謁見、貿易に対するお札を述べる一大行事です。1790年以降は4年に1回になりました。

シーボルトは1826年2〜7月の商館長ステュレルの江戸参府に随行、道中において日本の環境や風俗など様々な調査をするため、画家の川原慶賀や彼の門人、書記などを一行に加わりました。



幕府に献上するため、日本の様々な資料と交換するため、使節を立派に見せるため、様々なものを持参しました

シーボルト年表

日本研究にささげた生涯



- 1796年(寛政8) 誕生
- 1815年(文化12) 19歳 ヴェルツブルグ大学哲学科入学
- 1820年(文政3) 24歳 翌年以降は医学部に入籍
- 1820年(文政3) 24歳 医師資格試験に合格
- 1822年(文政5) 26歳 ヴェルツブルグ大学卒業
- 1822年(文政5) 26歳 内科学・外科学・産科学博士
- 1822年(文政5) 26歳 オランダ領東インド陸軍
- 1823年(文政6) 27歳 外科軍医少佐に任命される

第一回来日

- 1823年(文政6) 27歳 東インド自然科学調査官就任
- 1824年(文政7) 28歳 2月 出島の商館医員に任ぜられる
- 1825年(文政8) 29歳 4月 日本へ向けてバタヴィア出航
- 1826年(文政9) 30歳 6月 長崎港に到着、出島に上陸
- 1826年(文政9) 30歳 8月 其扇(楠本たき)を迎え入れる
- 1827年(文政10) 31歳 9月 其扇(楠本たき)を迎え入れる



たくさんの人が医学や蘭学を教わったよ

27歳の才人が ついに日本へ！



ヨーロッパでの日本研究

- 1824年(文政7) 28歳 3月 通詞の榎林塾、吉雄塾を借りて診療と医学教育を行う
- 1825年(文政8) 29歳 6月頃 鳴滝に塾と植物園を設ける
- 1826年(文政9) 30歳 4月 出島に植物園を建設
- 1826年(文政9) 30歳 江戸参府に同行(2〜7月)
- 1827年(文政10) 31歳 出島にケンペルとツェンペリーの顕彰碑を建立
- 1827年(文政10) 31歳 5月 其扇との間に女兒誕生
- 1828年(文政11) 32歳 シーボルト事件発生
- 1829年(文政12) 33歳 10月 国外追放、再入国禁止の判決
- 1832年(天保3) 36歳 12月 出島出航

第二回来日



再来日は63歳！

その他多数の日本関係文書を執筆 帰国後も日本研究を進めました



- 1832年(天保3) 36歳 『日本』第一分冊を出版
- 1833年(天保4) 37歳 『日本動物誌』第一分冊を出版
- 1835年(天保6) 39歳 『日本植物誌』第一分冊を出版
- 1859年(安政6) 63歳 2月 日蘭通商条約改正案を日本に持参せよと命を受ける
- 1860年(万延元) 64歳 4月 長男アレクサンダーと出発
- 1862年(文久2) 66歳 8月 長崎到着、出島に入る
- 1866年(慶応2) 70歳 夏 鳴滝の旧宅を買い戻し、植物園を再設置する

没後

- 1922年(大正11) シーボルト宅跡が国指定史跡に
- 1923年(大正12) 来日100周年
- 1973年(昭和48) 来日150周年
- 2023年(令和5) 来日200周年

もっと日本にいたかった！



200th